

生徒データベースの活用

「生徒名簿一覧表」で ラクラク RAKURAKU

朝来市立朝来中学校

①こんな課題がありました(改善の必要性)

- 【課題 1】 年度当初の多忙な時期に生徒に関する書類・帳票等を多数作成しなければならない
- 【課題 2】 生徒に関する最新の正確な情報がわからない
- 【課題 3】 同じようなデータを各々が入力するため、時間、労力の無駄が多い

②その背景にはこんな要因がありました(課題の発生要因)

- 【要因 1】 新入生のデータを新年度直前に作成していた
- 【要因 2】 行政当局から送られてくる生徒に関する書類が校内で共有できていない
- 【要因 3】 各担当者がそれぞれに資料を作成していた

③そこで、こんな改善に取り組みました(改善の方向性)

- 【改善 1】 新入生のデータは入学前の 1 月に作成する
- 【改善 2】 生徒データベース「生徒名簿一覧表」を作成し、サーバ機の共有フォルダに保存することにより、生徒の基礎的情報を一元管理する
- 【改善 3】 行政、他校から送られてくる書類を基に「生徒名簿一覧表」を作成する
- 【改善 4】 「生徒名簿一覧表」を常に最新の情報となるよう、加除・修正する

④改善に取り組むことにより、こんな効果がありました(改善の効果)

- 【効果 1】 新年度の校内組織が決まり次第、必要な書類・帳票等を作成できる
- 【効果 2】 全職員が素早く、生徒情報を活用できる
- 【効果 3】 正確な情報が得られる
- 【効果 4】 安心して生徒情報を活用できる

推進校ではこのように取り組みました(改善事例)

◆①②こんな課題や要因がありました(改善の必要性・課題の発生要因)

●年度当初は書類作成が多く、忙しすぎる

新年度の非常に多忙な時期にもかかわらず、校内組織が決まった後、新年度当初に新入生のデータを作成していた。特に、新1年生の学年団にとっては少しでも事務の軽減が求められていた。

●生徒に関する最新の正確な情報がわからない

例年、1月期に市教育委員会から入学予定生徒の通知があるが、当然新年度の校内組織が決まっていない段階であり、通知された生徒名簿はファイリングされたままとなり、住民基本台帳に基づいた正確な情報を、全職員が得られていなかった。また、転出入、転居、保護者変更等、入学後の変更など最新の情報が共有できる状況でなかった。

●時間、労力の無駄が多い

担任、学年代表、養護教諭、部活動顧問等が、担当者ごとにデータを入力するため、同じようなデータを各々が資料作成するケースがあり、時間の無駄、ひいては労力の浪費をまねいていた。

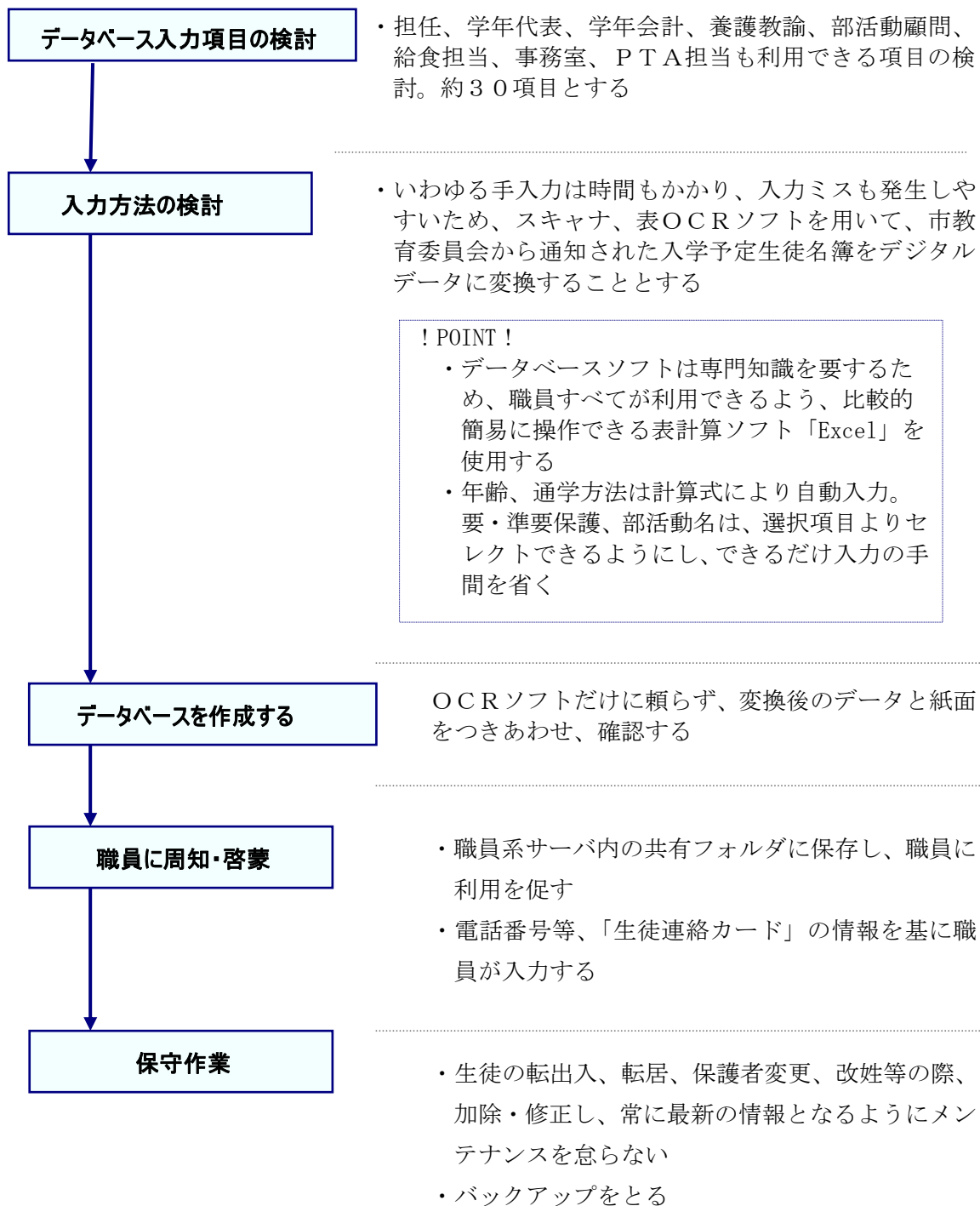


これらの課題認識のもと次のような取組により、業務の効率化を図りました。

平成19年度入学以降の生徒にかかわる基礎的な情報を、生徒データベース「生徒名簿一覧表」として作成し、職員でファイル共有する。

◆③こんな改善に取り組みました(改善の方向性)

【取組フロー】



◆④こんな効果がありました(改善の効果)

◎資料作成がすぐにできた

新入生の基礎的データ(名前、ふりがな、生年月日、性別、保護者名、住所、行政区、通学方法)は1月中に入力されているため、新年度の校内組織が決まり次第、必要な書類・帳票等に加工・作成できる。例えば、クラス名簿、保健関係名簿、PTA名簿、校外生徒会名簿、卒業生名簿、生徒机・椅子・ロッカー・下駄箱用名前シール、資源回収時の地区毎の生徒把握などの資料作成に利用できた。

◎情報の共有、利用ができた

平成22年度当初には職員一人1台のパソコン環境ができており、「生徒名簿一覧表」は職員系サーバ内の共有フォルダに保管しているため、パソコンが校内LANにつながっていれば、同じファイルから全職員が素早く、生徒情報を活用できるようになった。

◎正確な生徒情報が得られるようになった

新入生の基礎的データについては、以前は小学校からのデータや保護者から提出を受けた「生徒連絡カード」・「保健調査票」の記載などを基に、職員が主に手打ち入力していた。そのため、氏名の微妙な間違い、生年月日などの入力ミスが見受けられたが、本「生徒名簿一覧表」は、住民基本台帳を基にした市教育委員会通知の入学予定生徒名簿をデータ化し、確認作業も行っているため、正確な生徒情報が利用できるようになった。

◎安心して生徒情報を活用できるようになった

生徒の転出入、転居、保護者変更、改姓等の際、加除・修正し、常に最新の情報となるようにメンテナンスをしている。また、ファイルにパスワードをかけ、バックアップをとっているため、職員は安心して利用できるようになった。